

村債の現在高

(平成元年度末)

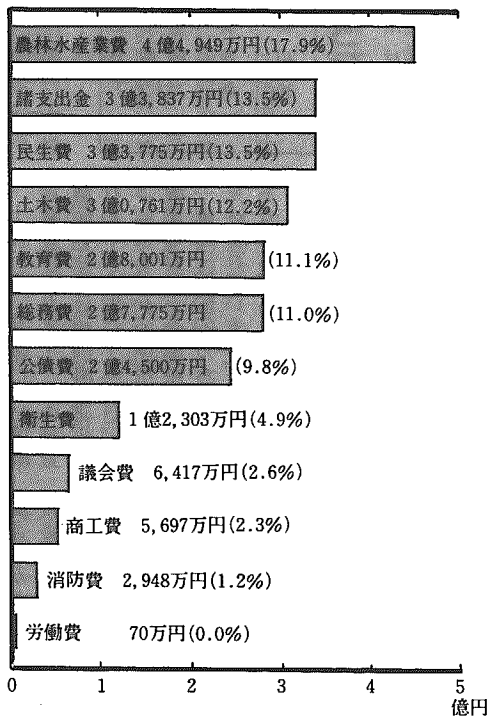
道路・橋りょう・公園	5億3,402万円
義務教育施設(小・中学校)	4億3,594万円
農業施設	4億0,449万円
役場庁舎	2億6,369万円
保育所	1億1,395万円
老人福祉センター	7,200万円
その他	9,823万円
合計	19億2,232万円

豊かで潤いあ

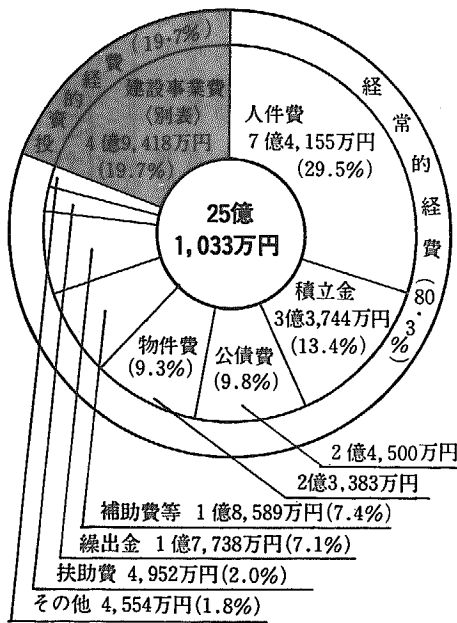


お知らせします

〈表2〉 歳出25億1,033万円



〈表3〉 性質別経費



〈別表〉 投資的経費

○庁舎土留工事、交通安全施設	331万円
○リフトバス、老人福祉センター車庫棟他	1,283万円
○米生産コスト低減システム確立対策事業、地域農政活性化対策事業、農村総合整備モデル事業、木津、砂崩農免農道負担金	2億2,551万円
○道路改良整備、農地防災排水事業、たん水防除事業、地盤沈下対策事業	1億8,730万円
○消防施設整備	171万円
○小・中学校施設整備、グラウンド土留工事、公民館施設整備、小杉地区コミュニティ増築工事	6,273万円
○その他	79万円
計	4億9,418万円

○村民一人当たり使ったお金 (前年度対比: 一・六%)
 ○村民一人当たり借金残高 (前年度対比: 一・〇%)
 (前年度対比: 一・八%増)

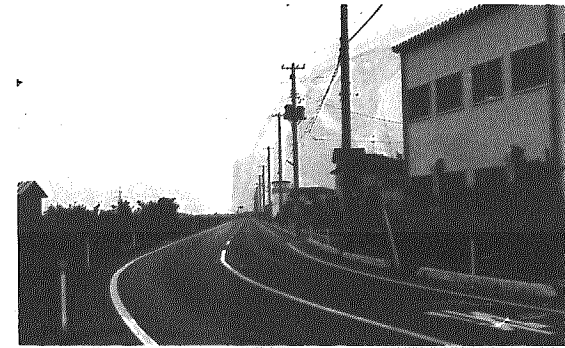
があつた農林水産業費が一七・九%、それに社会福祉事業の充実、健康づくりを進めている民生費が一三・五%となつている一方で、今後の財政負担や公債費負担に備えて、財政調整基金に六百万円、減債基金に一億円を積み立てたほか、体育施設整備基金に一億五千万円、ふるさと基金に七千万円を積み立てるなど財政の健全化にも留意しています。

また、性質別経費(表3)をみますと、職員給与や議員など各種行政委員の報酬である人件費や公債費などの経常的経費が八〇・三%、道路整備や農村総合整備モデル事業など投資的経費が一九・七%となつています。おもな内容については(別表)を参照ください。

(この決算見込みについては、今後、村議会で審議されることとなります。)

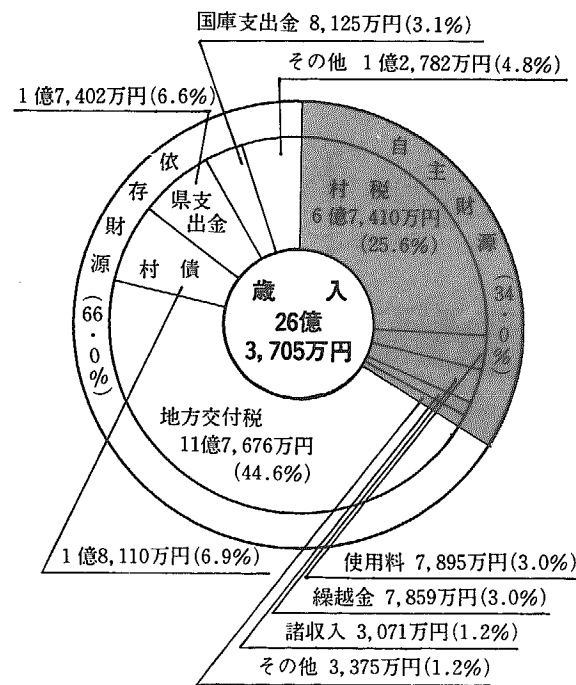
る村づくりを

平成元年度一般会計 決算見込み



整備された村道57号線(横越村役場わき)

〈表1〉 歳入26億3,705万円



村のお金がどのように使われ、村財政はどのように運営されているかを、村民のみなさんから知っていただくため、平成元年度の決算見込み(一般会計)をお知らせします。

村税の内訳

村民税	3億2,153万円	村民1人当たり 33,531円
固定資産税	2億9,997万円	31,283円
たばこ消費税	3,334万円	3,477円
軽自動車税	951万円	992円
電気・ガス税	424万円	442円
その他	551万円	575円
合計	6億7,410万円	70,300円

(前年度対比0.6%減)

平成元年度一般会計の決算 一億二千八百七十二万円の黒字に

平成元年度一般会計は、当初予算二十一億一千万円でスタートしました。その後、八回の補正を行い決算額(見込み)は歳入二十六億三千七百五十万円に對して歳出二十五億一千三百三十三万円となり、差引き一億二千六百七十二万円の黒字となりました。

前年度と比べると、歳入は一億五千五百六十一万円、歳出は一億七百四十八万円それぞれ増え、その増加率は歳入で五・九%、歳出では四・三%の伸びで、元年度一般会計が黒字になった要因には、地方交付税の伸びや村税などで増収となったことによるものです。

村の財政は、好転しつつも依然として借金(村債)による財政運営を余儀なくされるなど、厳しい財政事情となっております。このようななかで、ますます増大する行政需要に対応するため、今後とも限られた財源の有効活用を努めていきます。

環境整備の促進と 効率的運営で健全財政に努力

歳入をみますと(表1)、村税など自分の村で確保できるお金(自主財源)は三四・〇%、これに對して地方交付税や借金(村債)など依存財源は六六・〇%となっております。

このなかでも、借金財政から抜け出すため村債を極力抑えたものの一億八千万円(六・九%)となりました。元年度末の借金残高(一般会計)は、前年度の十八億六千九百九十九万円に比べ五千三百三十三万円増の十九億二千二百三十二万円、村民一人当たり二十万四千七百一十一円の借金をしている勘定になり依然と続く苦しい台所といえます。

歳出の状況は(表2)、環境基盤整備などを行った農村総合整備モデル事業や排水路、道路整備など